

東京湾横断道路株式会社

〒140-0014 東京都品川区大井一丁目20番6号
住友大井町ビル北館5階
Tel. 03-5718-7611 (代)
Fax. 03-5718-7640



アクアライン事業所
〒292-0008 千葉県木更津市中島2533
Tel. 0438-41-5341(代)
Fax. 0438-41-6051

資機材センター
〒292-0005 千葉県木更津市畔戸1946
Tel. 0438-41-1974(代)
Fax. 0438-41-5115

海ほたるパーキングエリア
アクアライン事業所 総務課
〒292-0071 千葉県木更津市中島地先 海ほたる
Tel. 0438-41-7401
Fax. 0438-41-7455
URL : <https://www.umihotaru.com/>

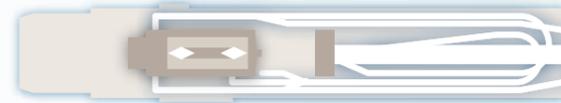
東京湾横断道路株式会社

TRANS-TOKYO BAY
HIGHWAY CORPORATION



ひとの喜びをつなぐ Connect everyone's pleasures

Trans-Tokyo Bay Highway Corporation



ごあいさつ

東京湾アクアラインは首都圏の幹線道路ネットワークの一環を形成し、交通混雑の緩和と房総地域の半島性を解消することにより、首都圏の均衡ある発展を促す「21世紀への夢の架け橋」として計画され、平成9年12月18日に開通いたしました。

当社はプロジェクトを実施するにあたって、民間が有する技術力、経験、資金力を最大限に活用するため、特別措置法に基づき東京湾横断道路(東京湾アクアライン)を建設、管理する会社として昭和61年10月に設立されました。

昭和62年7月には日本道路公団(現、独立行政法人 日本高速道路保有・債務機構及び東日本高速道路株式会社)と建設協定を締結し、建設工事をスタートさせました。平成元年5月に起工式を挙げて以来、最先端技術を駆使して建設工事を進め、平成9年11月に工事が完成、同年12月1日に日本道路公団への引き渡しを完了し、12月18日に東京湾アクアラインが開通いたしました。

東京湾アクアラインの開通に伴い、当社は、日本道路公団と管理協定を締結して、建設事業で蓄積した技術と経験を活かした維持管理及びお客様サービスの向上に努めています。今後も、これまで蓄積した技術と経験を活かして、安全安心で快適な高速道路空間の提供を通じて、お客様にご満足いただける様、東京湾アクアライン、海ほたるパーキングエリアの運営に努め、地域社会に貢献してまいります。

皆様方のビジネスに、観光・レジャーに、幅広いご利用をお待ち申し上げるとともに、変わらぬご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。



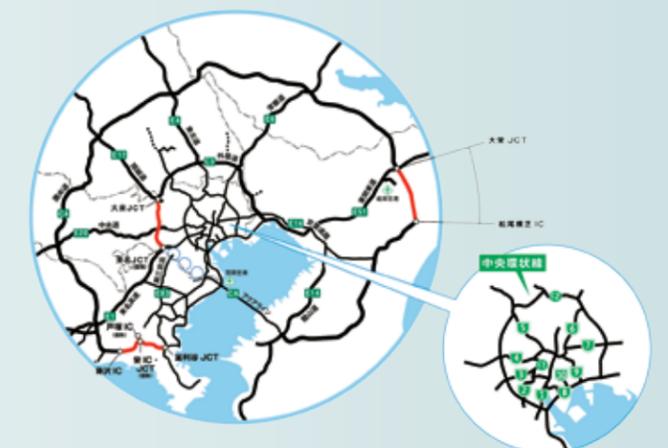
東京湾横断道路株式会社
代表取締役社長
八木 茂樹

アクアラインの位置付けと整備効果

東京湾アクアラインは東京湾の中央部を横断する延長約15kmの有料道路で、首都圏幹線道路網の一部を構成するものです。この道路は開発余地のある房総地域と開発の進んだ京浜地域を直結し、その交流を促進するとともに東京、横浜、川崎、千葉、木更津などの湾岸各都市の連携を強化し、首都圏のバランスのとれた発展に寄与しています。また、首都圏の南回りバイパスとして湾岸地域の首都高速道路、京葉道路等の渋滞緩和や災害時等の非常時の代替機能を担っています。

東京湾アクアラインの開通によって、川崎市と木更津市の移動時間は従来の3分の1(約30分)に短縮され、これにより、両岸地域はもちろん、首都圏域の交流促進、通勤・通学圏の拡大、観光需要創出、地場産業活性化などに寄与しています。

道路名 東京湾アクアライン
路線名 一般国道409号
道路区間 川崎市川崎区浮島町から木更津市中島まで
延長 15.1km
道路規格 第1種第2級
車線数 4車線(完成6車線)
設計速度 80km/h



資料提供:国土交通省HPより引用



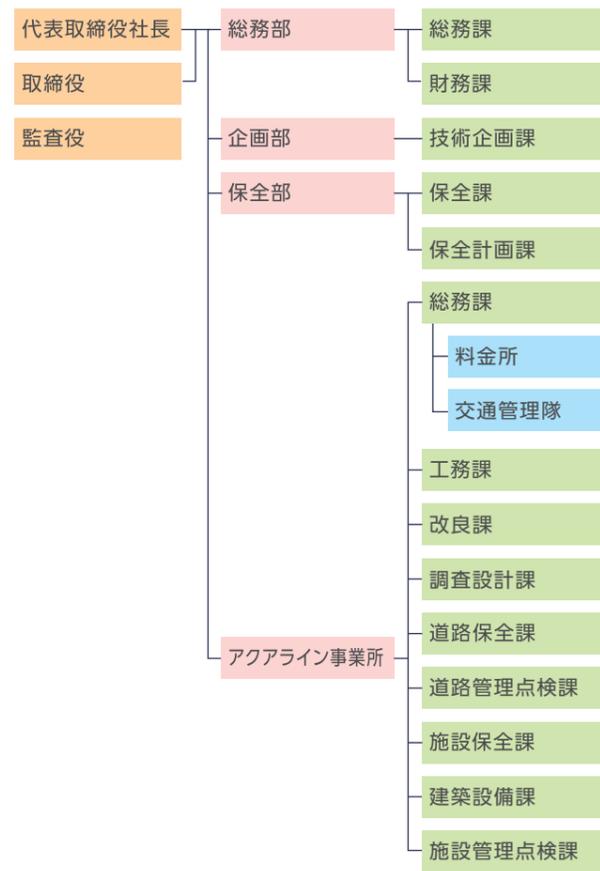
会社概要 (令和6年7月1日現在)

東京湾横断道路株式会社

設立年月日 昭和61年10月1日
 資本金 900億円
 役員 代表取締役社長 八木 茂樹
 役員数 11名(常勤役員5名)
 従業員数 122名

- 建設業許可
 - (1) 特定建設業
 - 東京都知事許可(特-4)第107115号
 - 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、屋根工事業、電気工事業、管工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、造園工事業、建具工事業、解体工事業
 - (2) 一般建設業
 - 東京都知事許可(般-4)第107115号
 - 機械器具設置工事業、電気通信工事業、消防施設工事業
- 登録電気事業者届出
 - 東京都知事届出第2910455号
- 測量業者登録
 - 国土交通大臣登録第(6)25030号
- 建設コンサルタント登録(鋼構造及びコンクリート部門・道路部門)
 - 国土交通大臣登録(建05)第6217号
- 警備業認定
 - 東京都公安委員会第30002284号
- 浄化槽保守点検業者登録
 - 川浄保第238号
 - 千葉県知事(登2)君地振第25号
- 旅行業登録
 - 千葉県知事登録旅行業第3-786号

組織



(グループ会社)
 株式会社東京湾横断道路サービス

沿革

- 昭和 61 年 10 月 東京湾横断道路株式会社設立
- 昭和 62 年 7 月 「東京湾横断道路の建設に関する特別措置法〔昭和61年法律第45号〕(以下、特別措置法)」第2条第1項の規定に基づき、日本道路公団との間に「東京湾横断道路の建設に関する協定(以下、建設協定)」を締結し、同法にいう東京湾横断道路建設事業者となる。建設協定に基づき、海上部14.3kmの詳細設計、建設工事を担当する。
- 昭和 62 年 8 月 日本道路公団及び地方公共団体から出資を仰ぎ第三セクターに移行。
- 平成 元年 5 月 東京湾横断道路起工式
- 平成 9 年 12 月 昭和62年の建設協定から10年の歳月と1兆2千億円余(東京湾横断道路株式会社分)の事業費を要した建設工事を完了し日本道路公団への東京湾横断道路(東京湾アクアライン)の完成・引き渡しを行い、12月18日に開通。

特別措置法第2条第1項第3号及び建設協定第22条の規定に基づき、日本道路公団との間に「東京湾横断道路の管理に関する協定(以下、管理協定)」を締結し、東京湾アクアラインの供用開始後の維持、修繕等の管理を行うこととなる。

東京湾アクアラインの供用開始と同時に、管理協定に基づく管理事業及び木更津人工島(海ほたる)パーキングエリアにおける休憩施設の営業を開始する。
- 平成 17 年 10 月 当社の主要株主である日本道路公団の分割民営化に伴い、東日本高速道路株式会社が当社の主要株主となる。なお「建設協定」及び「管理協定」については独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構及び東日本高速道路株式会社に承継される。

以降、建設事業で蓄積した技術とノウハウを活かした管理業務を現在に至り行っている。

安全な道路を目指して

維持修繕業務

道路保全

東京湾アクアラインが安全・快適に走行できるよう、点検データに基づき鋼製橋脚塗装補修工など、海上構造物の効率的な延命化に努めています。また、路面・側溝及びトンネル壁面などの清掃作業や、交通事故で損傷が生じた際の復旧作業などを行っています。さらに冬季は雪氷作業も行い、日々走行環境の維持に努めています。



施設保全

東京湾アクアラインに設置された照明設備・トンネル換気設備や海ほたるPAの建物などを良好な状態に維持するため、清掃、定期整備や補修・取替等を行っています。トンネル照明の更新では灯具のLED化など省エネ・コスト縮減にも努めています。



保全点検業務

道路点検

東京湾アクアラインの路面状況等を日々把握するとともに、アクアブリッジやアクアトンネルの構造物としての健全性を国の基準等に従って点検・評価・診断を行います。その結果は、データベースとして蓄積し、維持修繕計画の検討及び調査設計業務等に活用しています。



施設点検

東京湾アクアラインに設置された設備の機能や構造の劣化など、常に異常がないか定期点検・診断し、故障等があれば即座の復旧等対処します。また船舶のため海上部に設置された灯標や風の塔などに取り付けられた航空障害灯の点検も行っています。



管理業務

交通管理

交通巡回を通じ、東京湾アクアラインを24時間365日安全で安心に走行していただけるよう路上落下物の排除や事故発生時の交通規制等を行い、通行車両の交通安全を見守っています。



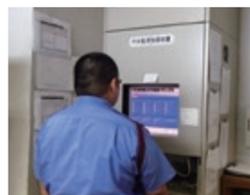
料金収受

木更津金田の料金所ブースで現金でのお支払いのお客様から直接料金をお預かりし、またETCをご利用の方にはトラブル時のサポートを行っています。お客様とのふれあいは一瞬ですが、身だしなみ、笑顔での挨拶に心がけ、迅速で正確な通行料金の収受に努めています。



防災センター管理業務

海ほたるパーキングエリア内の防災設備の24時間体制での監視等を通じ、もしもの火災発生や地震でのエレベータ停止時など即座の対応を行います。



インフォメーション業務

海ほたるパーキングエリアのインフォメーションでは、常に高速道路の天候・事故・渋滞等最新の道路交通状況を把握し、お客さまへの情報提供を行っています。また海ほたる内で事故、事件などが起きた場合は速やかに関係機関に報告するとともに、お客さまの安全確保に努めています。

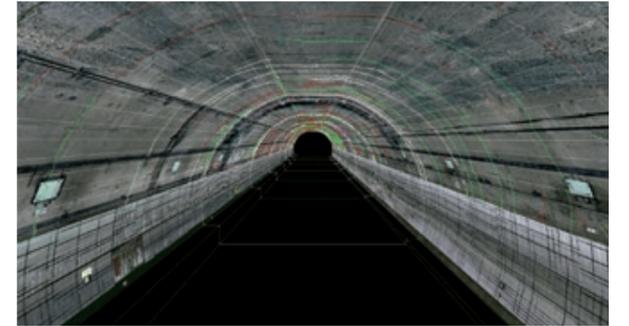
快適な走りを届ける先端技術

ペースメーカーライトによる渋滞緩和



トンネル部の道路の両側に設置した、青色LEDライトを進行方向に流れるように点滅させることにより、速度低下を軽減させ、渋滞緩和を図るものです。休日の渋滞量を路線全体としては21%減少させる効果を実現させています。

トンネル二次覆工3次元測量調査



アクアトンネルは9.6kmの海底長大トンネルです。トンネル二次覆工コンクリートの経年変化の把握と近接目視点検や打音点検等詳細な調査が必要な箇所をスピーディかつ的確に抽出するため、「覆工表面画像撮影」と「二次覆工3次元測量」を同時に行う特殊車両により調査を行っています。

風の塔鋼製ジャケット電気防食 陽極交換



風の塔の鋼製ジャケットには防食対策として電気防食装置が採用されています。アルミニウム合金陽極の製造・検査から鋼製ジャケットの付着物除去、陽極取付などの海中作業及び電位測定検査を実施しています。

鋼製橋脚専用足場を利用した点検と補修



東京湾アクアラインの橋脚は、海上部に位置すること、デザイン・強度ともに優れた、特徴的なY字型の形状であることから、特殊な足場が必要になります。「強風時、地震時の安定性」「橋脚にダメージを与えない構造」「全橋脚に対応できる汎用性」「低コストを実現する設置方法」を可能とする特有の専用足場を設計・製作して点検と補修を行っています。

独自の取り組み

AIT(アクアラインインフラツーリズム)

東京湾アクアラインには、一般にはあまり知られていない建設の工夫や安全確保の仕掛けがたくさんあります。専属のガイドが普段は立ち入れないアクアラインの裏側をご案内しています。



地域社会とともに

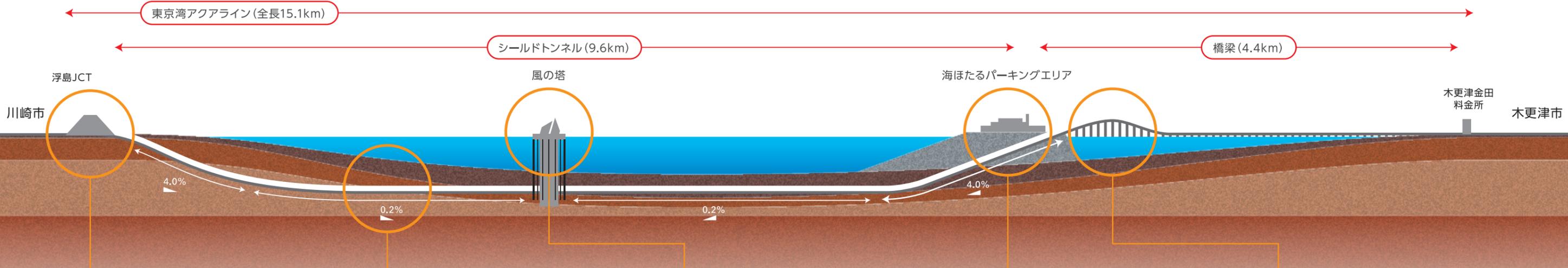
東京海洋大学及び東日本高速道路株式会社との産学連携協力の協定をはじめとして、これまで培った研究開発力や人材、技術、設備などを活かした新技術の導入にも取り組んでまいります。その1つのテーマとして、海中構造物の点検を行う海中ロボットの研究・開発を行っています。

建設時に用いられた最先端技術

東京湾の中心部は水深が約28mあるうえ、海底面に厚さ約30mに及び軟弱な地層があります。また、東京湾地域は大正12年に関東大震災がありましたように、地震の多発地帯であり、この地域に巨大な人工島や大断面の長大なシールドトンネル、海上長大橋を建設することは、世界的に見ても新しい挑戦でした。

水面下114mまでの海底に筒状に造った壁の中を海面下70mまで掘削した「風の塔」。日本初の海上休憩施設をもつ、幅100m、長さ650mの「海ほたる」。世界最大級の直径のシールドマシンによる長距離掘進、2つのシールドマシンがお互いに高い土水圧の中でドッキングする、高い技術を駆使して作られた「海底トンネル(シールドトンネル)」。大型クレーン船を使って橋を一気に掛けた「橋梁部(アクアブリッジ)」。そして、これらの工事を施工するにあたって実施した海水を汚さないような対策、東京湾を通る船に対する安全対策、数々の未経験の巨大技術を集結して、東京湾アクアラインは完成しました。

また、東京湾アクアラインは首都東京の入口に位置するため、その景観に特別の注意が注がれています。皆様に長く使って頂く社会資産として、各構造物は専門家、芸術家の協力によって景観が検討されました。「浮島換気所」「風の塔」「海ほたる」「橋梁部」について全体のバランスやそれぞれの位置、機能等を総合的に考えて景観に配慮されており、一連の大規模施設として画期的な施設となっています。



浮島換気所

浮島取付部は、シールド発進基地となる立坑及び換気塔と、シールドトンネルが海底部に達するまでの約700mの斜路盛土部からなっています。斜路盛土部は沈下対策やシールドの安定掘進のため、盛土の下の軟弱地盤層の改良を行い、盛土両側の高い所には鋼製ジャケット、低い所には鋼管矢板等の護岸構

造物を設置し、護岸構造物の間は、セメント、砂、泥岩を混合した海中でも固まる特殊な盛土を開発して施工しました。また、海底トンネル掘削のためのシールド発進基地となる立坑は、直下に地盤改良・基礎杭打設後、箱型の鋼殻ケーソンを設置して構築しました。



シールドトンネル

シールドトンネルは、高水圧で軟弱地盤という条件下で掘削面の安定と止水を確保するため、密閉型の泥水加圧式シールドマシンを使用しました。シールドマシンは、口径14.14mの円筒状で先端に隔壁を備えており、隔壁の前方に加圧した泥水を送り込んで海底の水圧、土圧に対抗しながら掘り進みます。



風の塔

風の塔の施工位置は、川崎港沖合いの海上約5kmで、水深は28m程度あり、海底面下約30mは軟弱地盤となっています。このため、サンドコンパクションパイル工法等により地盤改良を行い、その後、土留め・護岸及び足場となる鋼製ジャケットを設置しました。人工島の構築は、鋼製ジャケットの間に地中連続壁を

施工し、その内側に人工島本体のコンクリート構造物を造りました。トンネル施工中はシールドマシン発進基地として、完成後は換気施設として利用しています。



海ほたるパーキングエリア

海ほたるの基礎基礎盤は、一部を除き軟弱地盤層の厚さが比較的薄いため、処理工法は軟弱地盤層を浚渫除去して、山砂と砕石で置換する工法を基本としました。その

後、斜路部及び平坦部の護岸工、盛土工の施工を行いました。また、浮島取付部と同様にシールド発進基地となった立坑は、鋼殻ケーソン工法により構築しました。



橋梁

沖合部橋梁の下部工は工場で作成した鋼製橋脚を海上輸送し、クレーン船を使って設置しています。浅瀬部橋梁の下部工は鉄筋コンクリート製の橋脚となっています。橋梁の上部工は鋼床箱桁形式となっており、工場を組み立てた後、「沖合部」「浅瀬部」「陸地に近い浅瀬部」の水深に応じた異なる施工方

法によってそれぞれ架設しています。また、耐震性と走行性の向上を目的として、多径間連続化を図り、9~11径間という大規模な連続桁構造となっています。



世界でも珍しい、海に囲まれたパーキングエリア

施設の全体構造は、豪華客船をコンセプトにデザインされており、ここでしか味わえない東京湾を360°見渡せるパノラマビューと売店、レストラン、パノラマデッキ、イベントスペースなどの施設を備えた海に浮かぶショッピングモールとなっています。



千葉方面から昇る朝日



富士山と横浜方面



神奈川方面に沈む夕陽



東京の夜景

規模・構造

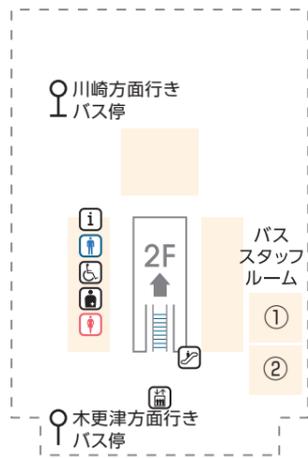
- 所在地 千葉県木更津市中島地先 海ほたる
 全長 全長約650m/全幅約100m
 延床面積44,233㎡
 構造 SRC造(一部S造)5階建
 フロア
 ●1階/大型駐車場(92台)
 ●2階・3階/普通車駐車場(392台)
 内 身障者用(各5台)、電気自動車充電スタンド(各1基)
 ●4階・5階営業施設
 全長約85m/全幅約50m
 ●5階展望デッキ
 全長約110m/全幅約60m

施設

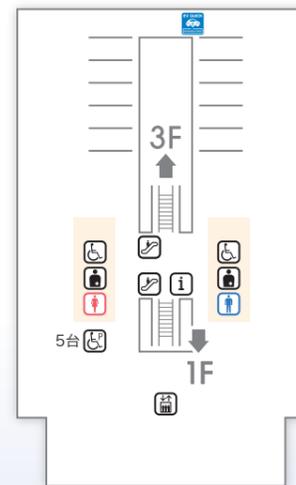
- 総合インフォメーション(館内・観光・道路案内) 平日9時~19時/土日祝8時~19時
- うみめがね~アクアラインシアター~(9時~19時)
- 足ゆ 平日8時~19時/土日祝8時~21時
- 給茶サービス
- 喫煙所(5階)
- バス・スタッフルーム(1階)
- 屋外ベンチ
- 屋内ベンチ
- フォトスポット・方位案内(5階:展望デッキ)
- トイレ(各階)
- 公衆電話(4階)
- ベビールーム(1室)、授乳個室(2室)
- 救護室(1室)

●カッターフェイス

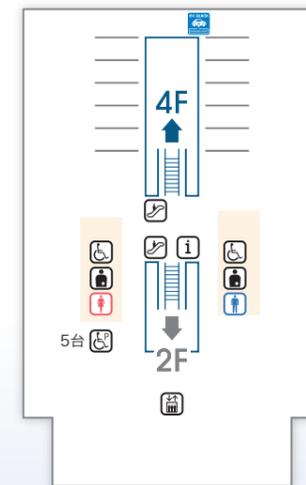
1F 大型車両・二輪車両駐車場(大型92台)



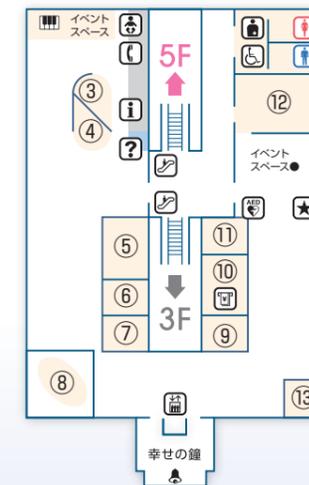
2F 普通車両駐車場(上り線) 196台(EV1基/身障者用駐車場5台)



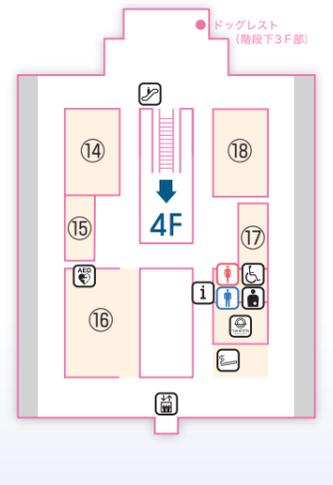
3F 普通車両駐車場(下り線) 196台(EV1基/身障者用駐車場5台)



4F ショッピングフロア



5F レストランフロア



ショップ情報※

1F ショッピングフロア

- ①セブン自販機(食品自動販売機)
- ②ベイ・ブランド 房の駅 マルシェ店(土産物)



※営業店舗の最新情報は海ほたるHP(<https://www.umihotaru.com>)をご確認ください。

4F ショッピングフロア

- ③IDEBOK Sweets Cafe
- ④スターバックスコーヒー
- ⑤ウミナカプラザ(土産物・免税店)
- ⑥シーフェアリー(軽食)
- ⑦ヨゴリーノ(スイーツ)
- ⑧おにぎり屋 結丸
- ⑨ベイ・ブランド 房の駅(土産物)
- ⑩セブンイレブン(コンビニ)
- ⑪うみばん(パン屋)
- ⑫アドアーズ(アミューズメント)
- ⑬足ゆ

5F レストランフロア

- ⑭房総海鮮処 木更津庵
- ⑮DOG Sea Terrace
- ⑯マリコート(フードコート)
- あさりやcafe(スナックフード)、海ほたるゴーゴーカレー、蕎麦 港屋(そば・うどん)、神様ちゃんぼん、あさりらーめん 波市、ちーば丼(どんぶり)、炙亭 とんぎゅう(どんぶり)
- ⑰回転寿司みさき
- ⑱オーシャン・キッチン